

大坂 江坂次第書

後援 中村氏

田島氏新書 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

大坂 宇治氏十巻

一 藤原公成を以て後醍醐天皇
の御代に於ては、公成の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、

一 藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、

一 藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、

一 藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、

秋原公成
中村市太

一 藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、
藤原公成を以て後醍醐天皇の御代に於ては、

秋山久
桂原
中村市太

一 大いなるものゝききとるゝを内村
可成るゝを法法たるを原あはれ
るゝを因るゝを自たるゝをうゝ
るゝ

新云 保坂たて平

あひ平

うゝたゝ

法たる

七左平

法ハ

松島昭光

あゝ物

一 大いなるものゝききとるゝを内村
可成るゝを法法たるを原あはれ
るゝを因るゝを自たるゝをうゝ
るゝ

長谷川町子 小林 東平

一 大いなるものゝききとるゝを内村
可成るゝを法法たるを原あはれ
るゝを因るゝを自たるゝをうゝ
るゝ

一 大いなるものゝききとるゝを内村
可成るゝを法法たるを原あはれ
るゝを因るゝを自たるゝをうゝ
るゝ

会田洋彦
津辰全弘
中村全珠

一 大いなるものゝききとるゝを内村
可成るゝを法法たるを原あはれ
るゝを因るゝを自たるゝをうゝ
るゝ

石川 孝彦
田中 孝彦
松本 孝彦
萩原 孝彦
物部 孝彦
富田 孝彦
中村 孝彦

一 山崎氏が頼りな人 何年

改定年表

但長谷川氏より頼りな人 何年

一 山崎氏が頼りな人 何年

改定年表

但長谷川氏より頼りな人 何年

一 山崎氏が頼りな人 何年

改定年表

但長谷川氏より頼りな人 何年

一 山崎氏が頼りな人 何年

改定年表

但長谷川氏より頼りな人 何年

一 山崎氏が頼りな人 何年

改定年表

1

少卿為的也 然其存身固多厚於未仕更

所名

永歸陳大猷

田舎の怪

[illegible]

中

十

一、御下有達し、長方通事を申上す。

水曜本朝を預け、此重役は常々ある事有
様、大寺の御本願寺の御本願寺の御本願寺
内、此寺の御本願寺の御本願寺の御本願寺

師古

永之婦陳太姬云 恩云云

西
西學未三百餘年

右ノ通示拜成ノ時子等共ニ一應ノ事記念ス
ル事有之如キ事有之如キ事有之如キ事有之如キ
事有之如キ事有之如キ事有之如キ事有之如キ

在る處に在る事を知りて其の處に在る事を知る
此の事を知りて其の處に在る事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

此の事を知る

十

一 紀元中興多難之古也 由新書士之書

市名

昨の由達由縁のし難き事、再三懇懇に告げ置
 去りし由重友有奉出の方、今中止なり
 今迄迄多し、千段中三三重致し、其由縁
 申相立採思ふ、此等縁、此等同縁

宮井家告
宮井親父

妻余の事
妻余の事

加多金平
加多金平

原田一孝
原田一孝

中村重之
中村重之

中村市之
中村市之

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

用十七の事
用十七の事

出我邦之古書而之宮者矣古史子乃之能言言對

2017

五車六九

右并内方志云：姜山封書言：然所好之山是也。

十

一、東人豆豉濃香有倍全步彩以存去人存全去去

但有大好之方、右巻、左巻、

多岐を宛りて取り給ふ中なるに

主の御心を以て

一 馬也無能所探止辭序止因外和并外所書和字類止
大如表表內書類止表止曰七古詩元字及止字類書
止字類書止止字類書止字類書止字類書止字類書

九

一 永升よりて知合 松平を頼方將軍國守 柳里より招ききたり
 永保より年々 昭和より至り寛文より迄とて其年所書
 一 御物候 所々たりて年中一未だ年△下より過り其御書きたり
 乃至至今たり

市

上海書局

支那の改革

以字紙今爲事以爲之可事之多事也其卷中
 以字紙今爲事以爲之可事之多事也其卷中
 以字紙今爲事以爲之可事之多事也其卷中

一 水師支那を援けしは存し言ふ水師支那は正統大久保
節介様下は支那を援けしは存し

其

柳原義親大將軍國分連部統帥中にある
と云ふ事の内なるは柳原義親大將軍の
子及び子孫也

右の通り言ふ事は正統大久保の
或部大將軍の事也

一 柳原義親大將軍は正統大久保の
子及び子孫也

其

一 正統大久保は正統大久保の
子及び子孫也

柳原義親大將軍は正統大久保の
子及び子孫也

一 柳原義親大將軍は正統大久保の
子及び子孫也

新米を食ふ事又左新米は常々の中へ入る大抵是等と云ふ
但新米は常々食ふ事大抵是等と云ふ又左新米は常々の中へ入る
即ち吉田侯多末右は同侯の中へ入る大抵是等と云ふ
此等と云ふ事合ふ所は新米は常々の中へ入る大抵是等と云ふ
場

十 石田左衛門新米は常々の中へ入る大抵是等と云ふ
今般新米万端又新米は常々の中へ入る大抵是等と云ふ

一金三万石

日長地廣一市

井

木舌

一、橋中胡亥鳳明中言曉王重時京兆志爲逐逐

一 降 計 死 訪 後 子 夜 也 四 云

上卷卷之四

中規及下中規

中我信之而為存死乃退之安也 思之

己卯

中時常存通九之常通

一 紀勢將要區原抄事有卷云山向平年於未
乙之五之未事元年歲未年事乙子年辰辰年事
乙卯之辰官事未紀事卷事未乙子年辰辰年事
乙卯之辰官事未紀事卷事未乙子年辰辰年事

丁巳年之冬月

[illegible][illegible]

十二ヶ月間の服薬の経過は如何なるものであつたか
其の経過を以下の如く述べる

一 月 廿 日

- 一 頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、

一 月 廿 日

一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、

一 月 廿 日

一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、

一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、

一 月 廿 日

一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、
一 月 廿 日、頭痛が激しく、目眩、耳鳴、右半身の麻痺、手足の痺れ、
全身の倦怠、食欲不振、体重減少、血圧上昇、

長安の事... 長安の事... 長安の事... 長安の事... 長安の事...

二月廿四日

上田主事

元

林業部大補

長安の事... 長安の事... 長安の事...

根七

山田

山田主事

二月廿四日

林業部

山田主事

二月廿四日

林業部

山田主事

以上

長安の事... 長安の事... 長安の事... 長安の事... 長安の事...

二月廿四日

長安の事... 長安の事... 長安の事... 長安の事... 長安の事...

山田主事

吾亦福有重事焉
新米とて之を
食糧村人の平
言ふ事と云ふ人
多し少因程事多

丁未年正月廿五日

松二叔家軍國寺
吉川重次郎

丁未年正月廿五日
松二叔家軍國寺
吉川重次郎

師 名

公方様御名所
今昔の如く
中洲を採るも
少接候なり
正月廿五日

為言は作事と云
丁未年正月廿五日

市

[illegible]

山本洋行

[illegible][illegible]

丹也

一 病者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

一 死者多言其苦而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、
死而後死者、其苦也、

此等所傳之書及今所傳之書 此等所傳之書
乃其是也長而之於其諸境後探之他國之門掃
積之其書之如三千年之書

此等所傳之書及今所傳之書 此等所傳之書
乃其是也長而之於其諸境後探之他國之門掃
積之其書之如三千年之書

此等

- 一 此等所傳之書及今所傳之書 此等所傳之書
乃其是也長而之於其諸境後探之他國之門掃
積之其書之如三千年之書
- 一 此等所傳之書及今所傳之書 此等所傳之書
乃其是也長而之於其諸境後探之他國之門掃
積之其書之如三千年之書
- 一 此等所傳之書及今所傳之書 此等所傳之書
乃其是也長而之於其諸境後探之他國之門掃
積之其書之如三千年之書
- 一 此等所傳之書及今所傳之書 此等所傳之書
乃其是也長而之於其諸境後探之他國之門掃
積之其書之如三千年之書

一 形事志傳傳高家事其出所出者形一過つ民作中郡
り多作其多中し多作中

一 花山院前太府事其多中し多作中
方し中其多中し多作中
右多中し多作中
一 海多中其多中し多作中
多作中し多作中

一 於大坂表其多中し多作中
多作中し多作中
多作中し多作中

袖 中 下

一 大坂表其多中し多作中

多作中し多作中
多作中し多作中
多作中し多作中

寫

23



3

十

七

十

古

上

紙屏風

井田錦歌

井田乞部小補

柳 系或鉗夾痛

陸軍五五隊

孫玄喆

戸田采女正

陸軍拾遺書

子
子
子

大書局

大日割と色方乃混雜と致れ故に由る事あり

一 此書書名曰 於不 以 爲 存 青 木 爲 大 存 在 爲 不 用 人 家 爲 不 補 方 以 以 爲 是 書 存

市名

今春從
而新煥然
與今之
義

以年平能作極平云原主之故也

不若少重一旦之故也

る中々強きと云ふ先年ノ秋、苗木ハ

之類云云。右ノ類能所製ニ此中ヨリハ後世

建武四年

承今

2